

病 害 虫 速 報 No. 7

イチゴ及び促成ピーマンでうどんこ病が多発しています。

[現在の発生状況]

- ① 1 月下旬現在、イチゴでの発病株率は平年より高く、発生地点率は平年よりやや高い。また、発病果率は平年よりやや高い（表 1）。
- ② 1 月下旬現在、促成ピーマンでの発病度は平年より高い（表 2）。
- ③ 促成キュウリにおいても、うどんこ病の発生を確認している。

表 1 1 月下旬におけるイチゴうどんこ病の発生状況

発病株率 (%)			発生地点率 (%)			発病果率 (%)		
本年値	平年値 ¹⁾	順位 ²⁾	本年値	平年値	順位	本年値	平年値	順位
7.6	3.6	1	56	32	3	0.7	0.2	2

1) 平年値：過去 10 年間（発病株率は平成 16～24 年までの 9 年間）の平均値を示す。

2) 順位：過去 11 年間（発病株率は過去 10 年間）における本年値の順位を示す。

表 2 1 月下旬における促成ピーマンのうどんこ病の発生状況

発病度 ¹⁾		
本年値	平年値 ²⁾	順位 ³⁾
12.5	3.2	1

1) 発病度：発病程度を 4 段階に分け、以下の式により算出した値。

$$\text{発病度} = \left\{ \frac{\sum (\text{発生程度} \times \text{発生程度別株数})}{(\text{最大発生程度指数} \times \text{調査株数})} \right\} \times 100$$

最小値は 0、最大値は 100 で数字が大きいくほど被害の程度が重い。

2) 平年値：過去 10 年間の平均値を示す。

3) 順位：過去 11 年間における本年値の順位を示す。

[防除対策]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、表 3 を参考に発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵農薬やミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。
- ⑤ 薬剤によっては、果実に汚れが付くものもあるので、十分注意する。

表3 うどんこ病に登録のある主な薬剤（平成25年1月16日現在）

薬剤名	系統	使用時期－本剤の使用回数	
		イチゴ	ピーマン
トリフミン水和剤 ¹⁾	DMI	収穫前日まで-5回以内	収穫前日まで-5回以内
ラリー水和剤		収穫前日まで-3回以内	収穫前日まで-4回以内
アフエットフロアブル	酸アミド	収穫前日まで-3回以内	収穫前日まで-3回以内
パンチョ TF 顆粒水和剤 ¹⁾	DMI+酸アミド	収穫前日まで-2回以内	収穫前日まで-2回以内
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン	収穫前日まで-3回以内	登録なし
モレスタン水和剤	その他	収穫前日まで-2回以内	収穫前日まで-3回以内

1) 有効成分が重複しているため、有効成分の総使用回数に十分注意する。

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法、注意事項を必ず確認のうえ、周辺作物への飛散に留意する。



写真1 イチゴ果実に発生したうどんこ病



写真2 イチゴ果柄に発生したうどんこ病



写真3 ピーマン葉に発生したうどんこ病



写真4 うどんこ病が発生したピーマン株